令和５年　１１月２０日

令和５年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和５年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

令和5年4月18日（火）

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第４学年	国語	62人	算数	62人	理科	62人
第５学年	国語	54人	算数	54人	理科	54人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

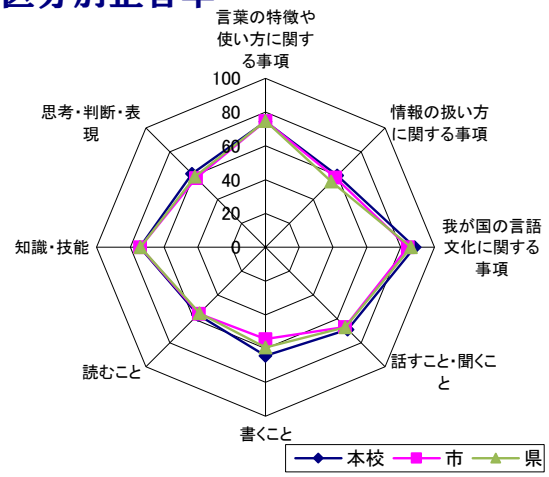
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.4	74.7	74.8
	情報の扱い方に関する事項	60.0	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	88.3	84.3	86.1
	話すこと･聞くこと	68.8	66.7	66.9
	書くこと	64.2	54.3	59.3
	読むこと	56.5	55.6	55.2
観点	知識･技能	74.4	74.1	74.0
	思考･判断･表現	61.5	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

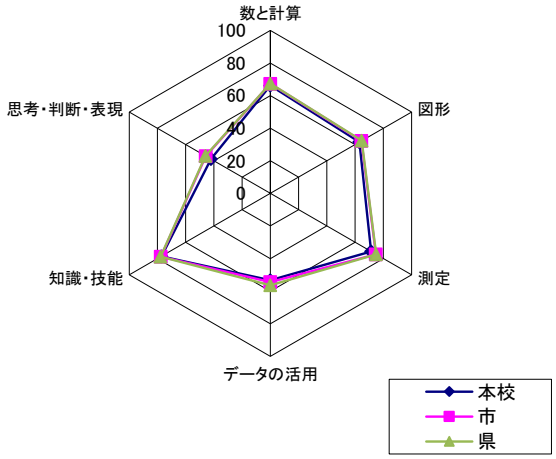
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は74.4%で，市の平均と同程度である。 ○ローマ字の読みの正答率は，市より13．7ポイント高い。 ●漢字の読み書きは，市平均より低く，無回答率も高い。	･1行ずつ同じ漢字を書く漢字練習のような，単純作業で筋トレ的な学習法に留まらないように，工夫して取り組ませる。具体的には，漢字ドリルに例示されている新出漢字の熟語を全て書き出したり，新出漢字を○個以上使って日記を書かせたりするなど，学習が日常化するよう工夫した取り組み方を行っていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は60.0%で，市の平均と同程度である。 ○国語辞典の一部から，4つの意味のうち事例に合う意味は何かを選ぶ問題では，市の平均より1．6ポイント高い。	･様々な場面で国語辞典を活用し，語彙を高めながら情報活用力を高めていく。単元テストでは，漢字辞典の使い方に課題が見られるので，定期的に漢字辞典に触れる活動も取り入れていく。各種辞典についてはタブレット端末を使って，オンライン上の電子辞書を活用することもできるので，活動に応じて利用していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は88.3%で，市の平均より4ポイント高い。 ○この項目に関する問題が「住」の部首は何か選択する内容であり，正答率が9割近くと高い。	･新出漢字を抑えるときには，部首や成り立ちについても抑えていく。また，漢字ドリルに部首や成り立ちの情報が書かれているので，児童自身で確認していくように意識付けをする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は68.8%で，市の平均と同程度である。 ○相手に伝わるように，自分の考えを理由を挙げながら伝える記述式の問題の正答率は85.0%と，市の平均より10．7ポイント高い。 ●同じ記述式の問題でも，参加者の発言の内容に着目して，司会者の発言に適した内容を書く問題は，正答率は同等であるが，無回答率が31.7%と高い。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉える問題は，市の平均より4ポイント低い。	･自分の考えや気持ちを表すことは比較的できているが，相手の考えや話し合いの論点に沿った発言をすることには課題が見られるので，友達の意見をよく聞き，質問や感想を伝え合う活動を適宜取り入れる。具体的には，朝の会のスピーチタイムの後に，感想や質問を伝える時間を設定したり，スクールタクトを使って友達の書いた日記や作文，新聞などに，コメント機能を使って感想等の反応を示すなど，他者と関わりをもって話せる場を設定する。
書くこと	平均正答率は64.2%で，市の平均より約10ポイント高い。 ○自分の考えを明確にして文章を書くことや，自分の考えとその理由や事例を明確にして文章を書く記述式の問題が8割ほどの正答率であり，どちらも市の平均より15ポイントほど高い。 ●段落の役割の理解が5割を切っている。	･普段取り組む日記でも，条件を提示して2段落以上の構成で書かせるなど，段落の意識が高まるように工夫して取り組ませる。 ･物語文や，説明文を扱う際に，段落ごとに何が書かれているのか，文章構成を徹底して抑える。 ･作文を書く際には，いきなり文章を書き始めるのではなく，書きたい内容やそれに関連した情報を文章構成を整理してから書かせるようにする。
読むこと	平均正答率は56.5%で，市の平均と同程度である。 ○●登場人物の気持ちを叙述を基に捉える問題では，問1では91.7%と，市の平均と比べても高いが，問が進むにつれて正答率が下がり，物語の後半部分にあたる問4の正答率は38.3%と，市平均より8．6ポイント低い。長文になると，最後まで読み切る力が低いことがうかがえる。	･学年に適した本を選び，最後まで集中して読めるように取り組ませる。具体的には月曜日と水曜日の朝の学習が読書になっているので，確実に実施し，チャレンジブックや学級文庫の読破を促す。 ･飽きてしまうと最後まで読まずに，読む本を変える児童が見られるので，粘り強く最後まで読み切るように支援する。

宇都宮市立御幸小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.2	67.3	67.4
	図形	63.0	64.5	64.7
	測定	71.3	74.7	74.9
	データの活用	53.3	54.4	56.4
観点	知識・技能	77.2	77.6	77.8
	思考・判断・表現	42.2	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

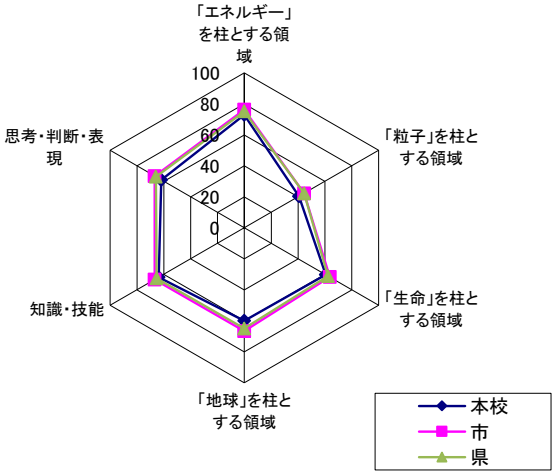
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は66.2%で，市の平均と同程度である。 ○数量の関係について□を使って正しく表された図を選ぶ問題では，市より7ポイント高い。 ●式の意味を正しくとらえ，言葉で説明する問題では，正答率が低く，市の平均を大きく下回っている。 ●計算においては，繰り上がり2回あるたし算や繰り下がりがあるひき算，2桁×1桁のかけ算や2桁÷1桁のわり算の正答率が低く，市の平均を下回っている。	・計算スキルやAIドリルを活用して繰り返し計算練習を行うとともに，宮っ子ステップアップシートを計画的に実施していくことにより，計算力を高めていく。 ・朝の学習の時間に，既習内容の問題を解いて定着度を確認したり，新しい単元に入る前にレディネステストを実施し，つまづきが見られる内容をプリント等で復習したりすることにより，学習した内容が確実に定着できるようにする。
図形	平均正答率は63.0%で，市の平均と同程度である。 ○二等辺三角形を作図する問題では,正答率は96.7%で，市の平均を12ポイント上回っている。 ●円の半径と直径について正しく選ぶ問題や，球の性質を利用して長さを求める問題では，市より8ポイント低く，無回答率も20%と高い。	・円や三角形の学習では，作図の方法を図形の特徴と関連付けて捉えさせ，定規やコンパスなどを用いて図形をかいたり確かめたりする活動を充実させる。 ・球の性質を利用して長さを求める問題では，場面をイメージしやすいように具体物を用いて授業を展開することにより，図形の性質を捉えられるようにする。
測定	平均正答率は53.3%で，市の平均より3．4ポイント低い。 ●小数で表されたはかりの目盛りを読み取り，「○kg○g」に表して重さを答える問題では，市より3．4ポイント低く，無回答率も高い。	・重さや長さの学習では，身の回りにある物を計測する活動を取り入れたり，生活の中で使われている場面を想起したりすることで，単位と実物の量を結び付けながら実感をもって理解できるようにする。 ・他教科との関連を図りながら，身近な物を計測する活動を意図的に設けていくことにより，長さや重さについての量感を身に付けさせていく。
データの活用	平均正答率は71.3%で，市の平均と同程度である。 ●棒グラフから，2番目に多かったスポーツを答えたり，2つの棒グラフで1目盛りの数が異なることに注意しながらグラフを読み取ったりする問題では，正答率が低く，市の平均を下回っている。	・グラフや表などの資料を，問題解決のために活用する力を高めるために，資料の読み取りに終始することなく，グラフの特徴を考察したり説明したりする活動を設定していく。 ・表や棒グラフに表す活動では，児童の興味・関心を高め，問題意識が感じられるような課題を工夫して設定し，より身近なものとして感じられるようにする。また，他教科においても，実際にグラフを読んだり，書いたりする活動を取り入れ，実生活と算数科のつながりを意識させていく。

宇都宮市立御幸小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	72.9	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	40.6	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	60.6	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	60.0	66.6	64.9
観点	知識・技能	63.8	66.8	65.4
	思考・判断・表現	61.9	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は，72.9%で，市の平均より2．2ポイント低い。 ○車が動いた距離から送風機の風の強さを推測できるかどうかをみる問題では，正答率が市平均と同程度であった。 ●鉄くぎが磁石になったことを確かめる方法を考えることができるかどうかをみる問題では，市の平均よりも10ポイント以上低い。	・図や数字を使って実験結果を表現する活動を継続して行い，現象と数値をつなげて考えられるようにしていく。 ・多くの実験結果を整理する活動を通して磁石の特性をしっかり理解させ，「磁石になったということは，どういうことか」を明確にしてから，個人やグループ，学級全体で実験方法を考える活動に結び付ける。 ・授業の導入や振返り時にAIドリル等を用いて知識の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は，40.6%で，市の平均より3．9ポイント低い。 ○形を変えても重さはかわらないことを理解しているかどうかをみる問題では，正答率が市の平均を3．5ポイント上回っている。 ●姿勢を変えて図った体重が変化するのかを実験結果をもとに記述できるかどうかをみる問題では，正答率が3.3%であった。 ●ものの重さから，同じ種類の木でできている積み木を推測できるかどうかをみる問題では，正答率が市の平均より8．7ポイント低い。	・問題によって，正答率が不安定なことから，自分なりのイメージをもてていないことがわかる。実験結果を数値だけで理解するのではなく，自分なりの粒子イメージで図に表す活動等を取り入れ，「なぜ変化しないのか」「なぜ同じ重さなのか」を理解させる。 ・授業の導入や振返り時にAIドリル等を用いて知識の定着を図る。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は，60.6%で，市の平均より1．7ポイント低い。 ○アゲハが卵をうみつける場所を理解しているかどうかをみる問題では，正答率が市の平均より約10ポイント高い。 ●ホウセンカの成長について理解しているかどうかをみる問題では，正答率が15.0%と低い。	・今後もアゲハ蝶のたまごの観察を取り入れ，アゲハ蝶がたまごをうむ葉の種類は決まっていること，それには理由があることを理解させる。 ・「葉の成長・花・結実・枯れる」の観察機会を損なうことのないよう，計画的に観察記録を取らせたり，シャッフルされた観察記録を正しく並べ替えさせたりするなどして，知識の定着を図る。 ・授業の導入や振返り時にAIドリル等を用いて知識の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は，60.0%で，市の平均より4．9ポイント低い。 ○観察の記録から，かげと太陽の位置の関係を読み取ることができるかどうかをみる問題では，正答率が86.7%と高かった。 ●太陽の位置の変化を方位で理解しているかどうかをみる問題では，正答率が市の平均より5．7ポイント低い。	・今後も，かげと太陽の位置など，ポイントを明確にした観察を多く取り入れ，知識の定着を図る。 ・太陽やかげの動きの説明時には，必ず方位を声と手で示したり，様々な場所で太陽の動きを説明したりしながら，方位を意識づけるようにする。 ・授業の導入や振返り時にAIドリル等を用いて知識の定着を図る。

宇都宮市立御幸小学校 第４学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「しょう来のゆめや目標をもっている」「学習して身に付けたことは，しょう来の仕事や生活の中で役立つと思う」の肯定的回答は，それぞれ90.0%，95.6%とどちらも市の平均を上回っている。また，「教科などの学習は，しょう来のために大切だと思いますか」の質問では，全ての教科において肯定的回答が9割を上回った。本校の重点目標である「キャリア教育の推進」について，今後も家庭と学校と連携を図りながら進めていきたい。

○「本やインターネットなどを利用して，勉強に関する情報を得ている」や「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」の肯定的回答は，市の平均を上回っている。各教科で一人一台端末を活用した授業に取り組んだり，児童が自分の課題に合わせてインターネットや図書資料から情報収集・活用したりできるよう，今後も効果的なICTの活用について研修を重ねていきたい。

○「家の人と学校でのできごとについて話をしている」の肯定的回答は90.0%，「家の人と学習について話をしている」の肯定的回答は76.7%と，いずれも市の平均を上回っている。また，「家の人は，あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」の肯定的回答は，85.0%と市の平均と同等であった。多くの児童が，家庭で学校の話を聞いてもらい，褒めてもらっていると感じている。これからも家庭の協力を得ながら，児童の良さを伸ばす声掛けを行い，自己肯定感を育んでいきたい。

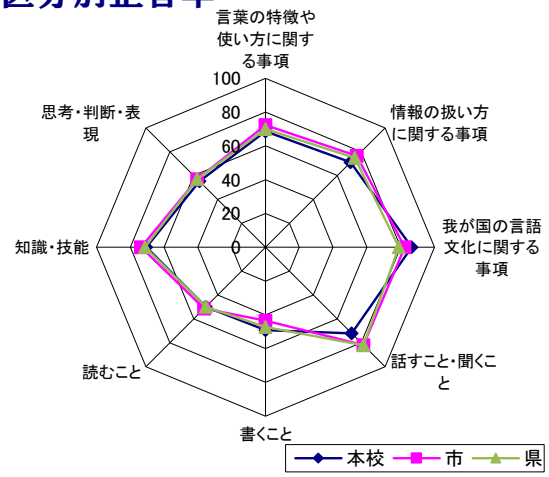
●「家で，テストでまちがえた問題について勉強している」や「家で勉強するとき，だいたい同じ時こくに取り組むようにしている」の肯定的回答は低く，市の平均を下回っている。児童が主体的に家庭学習に取り組めるような具体的な学習方法を示したり，各種たよりや懇談会等で家庭に呼び掛けたりして改善を図っていきたい。

●「ふだん，一日当たりどれくらいの時間，テレビやDVD，動画などを見たり，聞いたりしますか」や「ふだん、1日あたりどれくらいの時間，テレビゲームをしますか」の質問では，4時間以上が23.3%と，いずれも市の平均を上回っている。また，「学校のきまりを守っている」や「家でのきまりや約束を守っている」の肯定的回答は，それぞれ86.7%，76.7%と，市の平均を下回っている。メディアの使い方やルールについて，改めて学級活動や道徳，日々の生活の中で指導するとともに，家庭と連携しながら，ルールやきまりを守る心を育てていきたい。

宇都宮市立御幸小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.6	72.3	70.0
	情報の扱い方に関する事項	71.2	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	86.5	82.4	78.9
	話すこと･聞くこと	72.1	81.9	82.0
	書くこと	49.0	43.5	47.2
	読むこと	49.8	51.4	49.8
観点	知識･技能	70.5	73.6	71.3
	思考･判断･表現	55.2	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

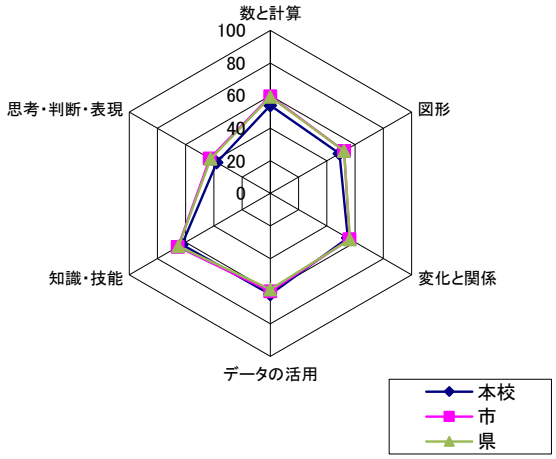
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は68.6%で，市の平均より2．9ポイント低い。 ○漢字を正しく読む問題においては，9割前後の正答率だった。 ●漢字を正しく書く問題や，修飾語の問題においては，市より10ポイント以上下回る内容のものがあった。	･ドリルを活用して繰り返し取り組み，ミニテストで定着を確認しながら，学習を進めていく。 ･プリントやAIドリルを活用し，既習漢字について復習する。また，文法においても復習プリントに取り組むことで，学習内容の定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は71.2%で，市の平均より5．2ポイント低い。 ●漢字辞典の使い方を理解し，調べ方として適するものを選ぶ問題では，市より5．2ポイント低い。	･辞書を使用して，学習を進める習慣をつけていく。また，様々な資料から情報を読み取ったり，活用したりする場面を設け，学習を深められるようにしていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は86.5%で，市の平均より4．1ポイント高い。 ○文を読み，適することわざを選ぶ問題では，市より4．1ポイント高い。	･単元ごとに新しく触れる言葉の意味調べなどを取り入れることで,辞書の活用を促すことで言葉への興味関心を高めていく。 ･自主学習ノートにまとめることで,語彙力を高めながら,達成感を味わえるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は72.1%で，市の平均より9．8ポイント低い。 ●意見の共通点に着目して，司会者の発言に適する内容を書く問題では，無回答率が28.9%であった。また，自分の考えを理由を挙げてまとめる問題では，無回答率が13.5%であった。	･授業中においてペアやグループ，全体を通して，話合いの活動を多く取り入れる。自分の考えと共通する点と相違点を意識しながら聞き取ったり，自分の考えを筋道を立てて相手に伝わるように積極的に話をすることで,話す，聞く力を付けていく。
書くこと	平均正答率は49.0%で，市の平均より5．5ポイント高い。 ○内容の中心を明確にし，事実を伝える文章を書く問題では，市より8．9ポイント高い。 ○内容の中心を明確にし，事実と自分の考えを書く問題では，市よりも6ポイント高い。	･朝の学習の時間を利用して，テーマや文字数を決めて文章を書く機会を設ける。 ･書いた文章を発表する場を設けることで,話す力，聴きとる力，さらにどんな文章が付け足せることができたかを意識させることで書く力を育てていく。
読むこと	平均正答率は49.8%で，市の平均とほぼ同程度である。 ○叙述を基に，文章の内容を捉える問題では，4．5ポイント高い。 ●叙述を基に，段落相互の関係を捉える問題では，9．3ポイント低い。	･朝の読書の時間を利用して，様々な文章に慣れるように指導し，文章読解力を向上させていく。 ･長文の読解においては，内容を要約したり,作者の意図を考えたりすることで読み物の楽しさを理解し，長文に慣れるようにする。

宇都宮市立御幸小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	54.0	59.7	59.2
	図形	49.0	52.1	52.1
	変化と関係	54.8	56.1	56.3
	データの活用	62.0	60.1	58.9
観点	知識・技能	62.7	65.5	65.1
	思考・判断・表現	38.1	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

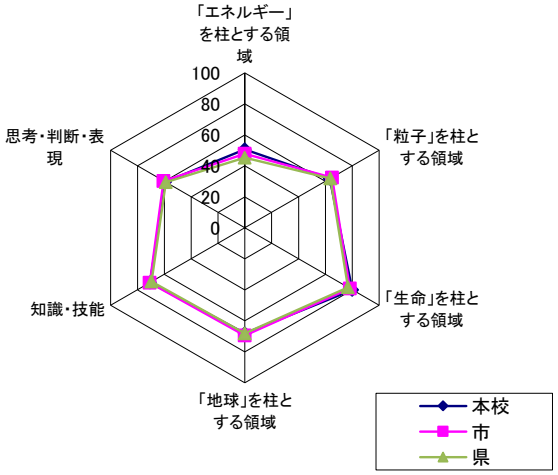
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は54.0%で，市の平均より5．7ポイント低い。 ○小数を集めた数を答える問題や四則混合の式の計算の順序を答える問題では，市と同程度であった。 ●3けた÷2けた＝2けた(余りあり)の計算では，市より17.2ポイント低い。	・小数の構成と，計算をする際に整数の計算がもとになっていることを復習する。 ・計算問題について，4年生までの復習問題や，フォローアップ問題，AIドリルなどを活用して基礎的な学力の定着を図る。 ・小数や分数の大きさを数直線上で表し，数の大小を視覚的に理解できるようにしていく。 ・式の意味や計算の仕方を，自分の言葉で説明し，友達と伝え合うことで，計算の工夫にも気付けるようにする。
図形	平均正答率は49.0%で，市の平均より3．1ポイント低い。 ○身近なものの面積と単位を理解しているかどうかを考える問題では，市より16．9ポイント高い。 ●複雑な図形の面積を求める問題では，市より19．2ポイント低い。	・それぞれの図形の性質を理解し，コンパスや分度器を適切に使って正しく作図ができるよう朝の学習や宿題などで復習していく。 ・面積の単位の関係を想像しやすくするために，身の回りの具体物を用いて実際に面積を求める学習を行う。 ・平面図形や立体の学習では，具体物を実際に観察したり操作したりする算数的な活動を通して，特徴を理解できるようにしていく。
変化と関係	平均正答率は54.8%で，市の平均より1．3ポイント低い ○数量の関係を正しく表している図を選ぶ問題では，正答率が82.7%と高く，市の正答率よりも14．9ポイント高い。 ●伴って変わる2つの数量の関係について，表をたてに見て分かることを説明する問題では，市より16．9ポイント低い。	・問題を考える際に，伴って変わる2つの量の変化の仕方に着目しながら，関係を表に整理し，規則性の活用について図や式を使って表現できるようにする。 ・記述式の問題について，自分の考えや学習の振り返りを書く時間を十分確保するとともに，自分の考えを説明したり友達に伝え合ったりする活動を意図的に取り入れていく。
データの活用	平均正答率は62.0%で，市の平均とほぼ同程度である。 ○二次元表を読み取り，条件に当てはまる人数を答える問題では，市より11．6ポイント高い。 ●2つの折れ線グラフから必要なことを読み取る問題では，市より8ポイント低い。	・身近な事象と結び付けて，表やグラフから分かることを考える活動を多く取り入れ，表やグラフを正しく読み取り，必要な情報をもとに問題を解決する力を育てる。 ・与えられている条件から，分かっていない表の情報を見つけ出せるような文章を読む力を，文章問題を多く取り入れることで養っていく。

宇都宮市立御幸小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	50.6	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	63.3	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	80.0	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	68.1	69.5	68.1
観点	知識・技能	70.6	70.8	69.5
	思考・判断・表現	59.4	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は50.6%で，市の平均より2．8ポイント高い。 ○乾電池のつなぎ方とその名称を理解しているかをみる問題では，市より9．4ポイント高い。 ●簡易検流計の針の振れ方の意味や電流が大きくなる回路について答える問題は，市の平均とほぼ同程度である。	・児童一人一人が，試行錯誤しながら，実験に取り組み，その結果を自分の言葉やキーワードを使ってまとめてきたことで，効果が上がっていると思われる。 ・実験の狙いや目的を明確にし，実験前に予想を立てて，自分の考えや結果の見通しを全体で共有してから，実験を行う授業展開を継続して行っていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は63.3%で，市の平均と同程度である。 ○金属を温めたり冷やしたりしたときの体積の変化を理解しているかをみる問題は，市より10．8ポイント高い。 ○夏に線路のレールのつなぎ目がない理由を記述する問題では，市より4．9ポイント高い。 ●水と空気を温めた時の体積の変化を理解しているかをみる問題では，市より10．9ポイント低い。 ●水を冷やす実験の準備を理解しているかをみる問題では，市より10．2ポイント低い。金属の温まり方をみる問題では，市より13．7ポイント低い。	・実験結果の推測や考察を通して，分かったことをキーワードを使って説明する活動を充実させ，思考・判断・表現力を育む授業展開を継続して行っていく。 ・実験する前に，明らかにしたいことは何かを考えさせたり，複数の実験方法を考えさせ，どの方法が適切かを選ばせる活動を取り組ませたりすることで，主体的に活動する力を身に付けさせていく。 ・目に見えにくいものに関しては，教育的動画等を積極的に活用して理解を深めていくようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は80.0%で，市の平均と同程度である。 ○サクラの様子がどのように変化するかを選ぶ問題では，市より15．8ポイント高い。 ●季節の変化とカエルの様子を関係付け，あてはまるカエルの様子を選ぶ問題では市より7．5ポイント低い。 ●腕を曲げた時の筋肉の様子を選ぶ問題では市より5．4ポイント低い。	・学校の畑でヒョウタンやヘチマなどを育てていることや校庭のサクラの木を理科の時間に観察してきたことで，その変化に興味をもち知識の定着につながったと考えられる。今後も実物を観察する機会を十分設けていきたい。 ・自然の事物・現象の理解を図るとともに，実際に観察する際に，なぜそうなるのかも自分の言葉で説明するような活動を積極的に取り入れる。 ・AIドリルを授業の導入や振り返りの時間を使って有効に活用したり宿題に出したりすることで，学習内容の確実な定着を図っていきたい。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は68.1%で，市の平均と同程度である。 ○天気の決め方を理解しているかをみる問題では，市より8．4ポイント高い。月の動き方と動く向きを理解しているかをみる問題では，市より8．4ポイント高い。月と星に関する問題の正答率は高い。 ●水槽の水が減った理由を選ぶ問題では，市より9ポイント低い。冷やしたペットボトルについた水滴が空気中の水蒸気が変化したものだと答える問題では，市より19．5ポイント低い。「水のすがた」や「天気の様子」から考える問題の正答率は低い。	・教師がデジタル教材などの映像で視覚的にポイントを示すことで，児童の理解を高めることができた。今後もICT教材を活用して学力の定着を図るようにする。 ・身近な体験と学習内容を関連付けて考えることで，理解を深めるような場面を設定する。 ・実験や観察の結果について，客観的な見方で自分なりの考えがもてるようにする。また，そのことについて理由付けをして説明する場面を設定する。 ・学習の中で科学的な視点を提示し，それをもとに実験や観察結果をまとめたり，考察したりするように支援する。

宇都宮市立御幸小学校 第５学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○質問事項の「ぎ問や不思議におもうことは，分かるまで調べたい」や「むずかしい問題にであうと，よりやる気が出る」においては，県の肯定回答を上回っている。総合的な学習の時間や教科の単元内容を厳選し，タブレットの活用により調べ学習の充実を図られたことによるものと思われる。今後も児童の学習への意欲が更に高まるよう支援していきたい。

○「学校で役わりや係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる」の項目に対しては，９割以上の児童が肯定回答であった。また，「自分は家族の大切な一員だと思う」の項目に対しても，９割以上が肯定回答である。「しょう来のゆめや目標をもってる」の項目も県の肯定回答とほぼ同等であることから，家庭との連携を図り今後のキャリア教育に繋げていきたい。

○「理科の学習は好きですか」の項目に対しては，８割以上の児童が肯定回答であった。また，「自然やうちゅうなど，科学の内容をあつかっているテレビを見たり，本を読んだりするのは好きだ」や「１か月に，何さつくらい読みますか」の項目でも肯定回答が県の回答を上回っていたことより，理科の学習から更に読書活動にも力を入れることで，他教科の学力向上も目指していきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の質問事項に対しては，県の肯定回答の63.3%に対して，本校では51.9%と大きく下回っている。朝のぐんぐんタイムを利用して，書くことに重点をおいた指導の充実，また，教科の学習を通して書くスキルの定着が図られるよう授業内容を工夫していきたい。

●「クラスの友達との間で，話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている」においては，県の79.8%の肯定回答に対して，本校では67.3%の回答だった。他の項目の肯定回答から調べ学習等の課題への意欲が期待されるので，グループ学習から発表の場，意見のやり取りの場を意図的に設け，話す，聞く，深めることへの苦手意識がなくなるような授業展開の工夫に努めていきたい。

宇都宮市立御幸小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	・音読活動の充実 ・朝のぐんぐんタイムの充実（漢字練習・計算練習・「書く」活動・読書） ・AIドリルの活用とステップアップシートの実施（年5回全校実施）	４・５年生ともに，漢字の読み書きや計算問題の正答率が低い。特に，かけ算・わり算の計算では，市の正答率を大きく下回っている。 ２学年とも，どの教科・領域においても個人差が大きく見られた。
言語活動の充実	・共同作業や問題解決的な学習など，児童同士が協力し合ったり教え合ったりする交流の場の設定 ・考え方や理由を筋道立てて説明する学習活動の設定	４・５年生ともに，指定された長さや2段落構成で文章を書く問題では，市の平均を3ポイント以上上回っている。 また，自分の考えや理由を書くことや，内容の中心を明確にして事実を伝える文章を書くことにおいても，市の平均を大きく上回っており，目的に応じて自分の考えを文章で表現する力が身に付いてきている。
目的に応じた話合い活動の充実と学習形態の工夫	・児童のよりよい考えや表現を生み出すようにするための支援・指導の工夫 ・全員が表現する場をもてるような指示，問いかけの工夫	４年生において，相手に伝わるように自分の考えを理由を挙げながら話すことができるかを問われた問題では，正答率が85%であり，市の平均を大きく上回っている。 話合い活動での参加者の意見をもとに考えをまとめる記述式の問題では，４・５年生とともに約3割の児童が無回答であった。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
自分の考えを文章にまとめる問題や式の意味を言葉で説明する問題では，無回答率が高く，平均正答率も市より下回っている。	・児童一人一人が自分の考えをもち，考え方や理由を筋道立てて説明する学習活動の充実	どの児童も自分の考えをもち，言葉や文章で表現できるように，発問・指示の仕方やワークシート等を工夫する。 目的に応じたペア学習やグループ学習を効果的に取り入れ，自分の考えを伝え合える場やなどの学び合いを工夫することにより，表現力を伸ばし，考えを広げ深められるようにする。
漢字の書き取りや計算問題において，正答率が低く，基礎的・基本的な内容が十分身に付いていない。また，家庭学習の取り組み方や学習時間にも個人差が見られる。	・朝のぐんぐんタイムの充実 ・単元や児童の実態に合わせた少人数指導や習熟別学習の充実と，個に応じた対応と集団の特性を効果的に生かす学習形態の工夫 「家庭学習のすすめ」や「家庭学習カード」を活用した家庭学習の推進と習慣化	朝の学習の時間を活用して，漢字・計算練習や書く活動を中心に行い，基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っていく。 単元の内容や児童の実態に合わせて，T・Tの活用や習熟度・少人数学習など指導体制を効果的に実施するとともに，AIドリルや復習プリントなどを活用し，個に応じた指導を推進していく。 自分で課題を見つけ，計画的に学習に取り組む姿勢が身に付くよう，「家庭学習のすすめ」を活用しながら引き続き指導を行っていく。